



日「臨床宗教師」研修初日の追悼巡礼。多くの人が犠牲になった場所での祈りをささげる宗教師＝宮城県石巻市

東日本大震災をきっかけに東北大で養成が始まった「臨床宗教師」。公共空間で心のケアを行う宗教師の活動は各地で盛んになり、他大学でも同様の講座が開かれるなど、裾野が広がっている。

「どう話せばよかったのか」「何ができるか」。円形に座った7人が順番に口を開く。仙台市の寺で開かれた第5回「臨床宗教師」研修全体会。仮設住宅、病院や在宅での緩和ケアといった現場で実習を行った受講生が体験をシェアする。死に直面する人と接したのは初めてという若い僧侶がとまどいを正直に話す。ホスピスで長く活動してきた研修担当の僧侶は、受講生の思いや困惑を丁寧に受け止め、問いと答えを繰り返しながら体験の意義が深まるようサポートしていく。

# 病院や在宅で緩和ケア

## 広がる臨床宗教師



布教・伝道を目的とせず、病院などの公共的空間で心のケアを中心に活動する臨床宗教師。終末期の心の痛みや大切な人を失った悲嘆に対応するスピリチュアルケアを学び、傾聴を基

師、医療、福祉関係者、一超党派というフィルターを一般の人々から幅広い層の参加者約30人が集まり、ケアの公共性を担保しやすいとの在り方や宗教師の役割を話し合っていた。「在宅でもとりをしたら、その場に宗教師が必要だと思った」。そんな声も飛び出した。講座の中心は、臨床宗教師で僧侶の吉尾大生さんと糸山公照さん。傾聴移動喫茶などにも取り組む予定で「被災地支援で他の宗教の人たちと接し、一緒にできると思った。学び合い、思いを分かち合い、実践できる場を広げたい」。

### 研修

臨床宗教師を構想し、東北大の実践宗教学寄付講座開設に尽力したのは、宮城県で在宅緩和ケアに取り組んだ故岡部健医師。研修の際、岡部医師の写真が常に受講生を見守る。ただ、同

本としつつ、相手に求められた場合にだけ誂経や祈りの宗教的ケアを行う宗教師だ。被災者支援の一環として東北大に実践宗教学寄付講座が開設され、第1回修了生が出たのは2012年秋。以降も仏教、キリスト教、神道、新宗教などの宗

教者が受講、被災地だけでなく、それぞれの地域でボランティア活動を行う修了生も増えた。今年になり関西や関東などの地域で支部が誕生、地域ネットワークの構築も始まっている。

### 肩書

中でも活発な活動をしているのが九州支部だ。熊本

ただ、「医療との連携に

院長。共同通信編集委員・西出 勇志、写真も」